

それでも、桜は今年も咲きました。被災地では、花見どころではないというのが実状でしょうが、美しく咲き誇る桜を見れば、ひととき心を華やいものにしてくれる。新たな勇気がわいてくる、そんな力があるように思えます。現在会員登録数 484 人さま。当初の目標数 500 人にあと一息！ご愛読いただきありがとうございます。次号は5月20日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 8

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 「おはなしポップ」おはなし会

当財団のボランティアグループ「おはなしポップ」が、大阪府立中央図書館で定期的におはなし会を実施します。

1. 日 時：奇数月の第4日曜日 午後2時～ 次回は5月22日(日)
2. 場 所：大阪府立中央図書館 こども資料室おはなしの部屋
3. 参加費：無料
4. 主 催：大阪府立中央図書館 こども資料室

詳細は → <http://www.library.pref.osaka.jp/kodomo/story.html>

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

◆ 活動報告については、

当財団HP <http://www.iiclo.or.jp/> をご覧下さい／

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『最果てのサーガ』 1～4 リリアナ・ポドック/著 中川紀子/訳

PHP研究所 2010年12月、2011年2月

あらすじ： <古の土地>で「死の女」が禁を破って自分の体液から息子ミサイネアスを誕生させた。そのため、憎悪が世界に広がっていく。海をへだてた<肥沃な土地>にもその兆しは現れ、「最果て」に住むウシウィルケ族の戦士のドゥルカンセリンも一族の代表として、最高天文学者によって都市ベラムで行われる民族代表者協議会に召集される。

本シリーズはミサイネアスの軍隊が<肥沃な土地>を3度攻撃する中で、ドゥルカンセリンの家族の歴史、ミサイネアスと契約を結んで太陽の国の王になったモリツモスの生きざま、<古の土地>での抵抗運動などが多様に描かれている。 対象：小学校高学年以上

Y：アルゼンチンからスケールの大きな神話的古代ファンタジーが登場しました。

O：死を司る存在であるために、子どもを産むことができない「死の女」が無理やり自分の子どもを誕生させるというはじまりとその息子が憎悪のかたまりとなって自分の手にも負えなくなってしまう設定に、まず、惹きこまれました。

Y：「死の女」が完全な悪ではなく、命あるものにとって必要な存在であるという描かれ方をされているのが作品に深みを与えていますね。「死の女」は「最果て」にやってきてドゥルカンセリンの娘に出会って旅をし、自分の罪に気づきます。

O：タイトルにあるように、<肥沃な土地>の中でも「最果て」の一家族に焦点を当てたところから、この作品は、「生きる」ことの根源的な意味を自然と共存しながら暮らすことにあると言っているようで、そこに共感がありました。

Y：キリスト教を背景にした西洋的なファンタジーと違うおもしろさを強く感じました。人間が自然に畏怖を感じて生きている様子をイメージできたのがよかった！

O：時間の観念が違っているようですね。語りによって伝承されてきた文化の深さが身に染みてきました。同時に、南米の神話・伝説を基にしている一方で、トールキンやルイスのファンタジーを読んできた著者だからこそ書けた作品だとも思いました。

Y：語りつくせませんが、ヒーローとしてのドゥルカンセリンはカッコいいですし、旅芸人のククブ、自然の掟を犯して鷹の目を通してしか世界が

見られなくなったピウケマン、ルルという架空の生き物など、魅力的な人物がたくさん登場します。

○：まじない師やドゥルカンセリンの母親など老人や、歴史の記憶を司るミミズク族のナーキンのキャラクターが特によかったです。読み終わってすぐ再読したくなりました。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 8

「その5 絵本の選び方(4) 絵本を評価する：テーマ」

私たちが絵本を選ぶとき、テーマ性のある本を選ぶべきか、それともテーマにこだわらず、絵本を選ぶべきかどちらでしょう。

端的に言えば、私はテーマ性のある本を選ぶべきだと思っています。

「テーマ性のある本」というのは、本の中にメッセージが書かれているという意味ではありません。むしろ、「けんかはやめましょう」「戦争をしてはいけません」というようなメッセージが直接的に書かれている本はおもしろくありません。

テーマは、読者が本を読むことを通して考えるように設定されていて初めて意味があると思います。「けんかとは何だろう」「なぜ、人はけんかをするのだろう」「けんかをする人間って何だろう」という問いを持てるような本こそ、テーマ性のある本だと思っています。

当財団特別顧問の中川正文先生は、いつも「『本を読む前と読んだ後で自分は何か変わったか』と問うてみるように」とおっしゃいます。新しい物の見方、考え方を獲得することが本を読む意味だと思っています。

このようなテーマ性は、ジャンルには全く関係がありません。上質なナンセンス絵本には社会を突き崩す笑いが描かれていて、笑いながらも、社会や人間のありように思いをはせることができます。

昨今、おかしければいい、集団の前で読んで盛り上がりさえすればいいというような絵本もあるように思います。大人が選ぶからこそ、笑いの中にもメッセージ性が欲しいと思うと同時に、シリアスな本はメッセージの押し付けにならない本を選ぶことが大切だと思っています。

*次号では「その5 絵本の選び方(5) 絵本を評価する：登場人物」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思っています。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

資料所在データベース第8回目。今回ご紹介するのは、以下のサイトです。
日本近代文学館 <http://www.bungakukan.or.jp/>

ご存じの通り、日本近代文学館は、日本近現代文学の資料を収集・保存する文学資料館です。文学館というと、どちらかと言えば展示メインのところが多いのですが、ここは資料の保存を主眼としているのが特徴です。

作家や研究者、財界からの賛同・支援を得て、1967年に開館。ここを契機として、各地に郷土の作家を顕彰する文学館がたくさん建設されました。その殆どが自治体の管理下にあるのに対し、同館は今日に至るまで完全な民間財団として運営されています。

コレクションとしては、芥川龍之介や石川啄木、谷崎潤一郎ら近代文学関係者が中心ですが、児童文学にも関係が深い川端康成や野村胡堂、山本有三、宇野浩二、有島武郎らの旧蔵資料が保存されています。

個人コレクションごとに目録を出すというポリシーも、研究者にはありがたいところです。同館にしか所蔵のない稀少な雑誌も多く、さまざまな分野の研究者等によって利用されています。近年、同館HPから資料検索が可能になり（NACSIS CATにも登載済）、さらに便利になりました。（J）

※次号は、資料所在データベース篇〈その9〉の予定です。

《4》 行って来ました！

劇団コーロの公演「いえでででんしゃ」を観てきました。原作はあさのあつこさんの同名の作品です。

小学3年生のさくら子が、お母さんに花瓶を割った「無実の罪」で叱られ、家出して駅で待っていると、やって来たのは「いえでででんしゃ」。

舞台は、見るからに古い、けどちょっと乗ってみたい気になる一両だけの電車の中で、風変わりな車掌さんによって進行されます。家出した子はタダで乗れてハンバーガーをサービスされたり、以前に乗った子の家出の理由が壁に書きなぐられていたり、日常とは異なる世界で、親と離れる開放感を味わいます。

電車がガタガタ揺れて外の景色の色が変わり、空を飛び、深海に潜る不思議な世界へ、観ている人も引き込まれていきます。車掌さんが椅子の数が足りないことに気づき、陽気だった車掌さんが不機嫌になって、家出していないニセモノ探しをする場面ではサスペンスドラマのような雰囲気が漂います。

さくら子たちは、だんだんだんだん家族のことを考えるようになり、家に帰ることを選びます。大人の決め付けに、子どもたちがきちんと言いたいことを説明できないもどかしさに共感し、誤解が解けてお母さんが謝るラストシーンでは、ぐっときました。

本を読んで、自分なりの空間を想像するのは違い、演劇では現実に目の前に起こることを登場人物たちと一緒に体感しながら、不思議な電車の旅を味わいました。（K）

【3】全国のイベント紹介

● 資料展示「掌のなかの芸術 豆本 いま むかし」

会 場：大阪府立中央図書館 国際児童文学館

期 間：開催中～7月3日（日）

内 容：同館所蔵の豆本 約60点

解 説：昔から、愛らしい装幀で読者を魅了してきた豆本。昔話をはじめ、合戦もの・祝いもの・遊戯ものなどの〈赤本〉や、〈づくし〉と呼ばれる乗り物や動物などをシンプルに並べた絵物語、または少年・少女小説群から伝記、漫画に至るまで、多彩な掌のなかの芸術を紹介。

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ?」で紹介しました『最果てのサーガ1 鹿の時』（リリアナ・ボドック/著 中川紀子/訳 PHP研究所2010年）を抽選で1名の方にプレゼントします。

ご希望の方は、メールで 件名「IICLO MAGAZINE NO.8プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス (5)このメルマガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。締切は5月10日(火)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

3月29日サッカー、チャリティーマッチでのカズ選手のゴールを目の前で見ました。まさにキングと呼ぶにふさわしい、日本中を感動させ、ニッポンに元気を与えたゴールでした。

当財団ができること、「被災した子どもに本を贈る運動ーいっしょだよ」を実施します。詳細は4月26日にHP等でお知らせします。子どもたちに新たな勇気、希望をいっぱい届けたいと願っています。皆様のご協力をお願いします。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

- 配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

- このメールの送信アドレスは配信専用です。

- 記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：財団法人 大阪国際児童文学館 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
